

近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

第 141 号

目次

1. 神鋼鋼線工業二色浜事業所：ワイヤロープ製造工程の見学会 1
2. 2024 年度年次大会 1
3. 学会誌『近畿の産業遺産』第 19 号 原稿募集 2
4. 「畝傍駅の 130 年を振り返る連続講演会」
第 2 回講演会を聴講して 寺島俊之 2
5. 「神戸灘区の歴史的建造物と鉄道・産業遺産の見学会」見学記 寺島俊之 3
6. 【出版物紹介】『葉書で訪ねる東ヨーロッパ、北・中央・南アメリカの橋』 5
7. 学会誌の電子ジャーナル公開について 6
8. 2024 年度第 3 回役員会議事録 6
9. 会員計報 6

神鋼鋼線工業：ワイヤロープ製造工程の見学会

神鋼鋼線工業の貝塚市二色浜にある事業所のワイヤロープ製造工場を訪問し、伸線・ストランド（撚り線）・製綱などの工程を見学するとともに、ワイヤロープの製造技術の歴史や現況、用途などについて学びます。

神鋼鋼線工業(株)は、尼崎市に本社を置く、線材二次製品の製造・販売会社で、鋼線、ワイヤロープ、エンジニアリングなどの事業を展開しています。コンクリート構造物の緊張材として用いられる PC 鋼材*を使用した製品を主力としています。事業所は、本社と同じ住所にある尼崎事業所と、加古川市と貝塚市にロープ製造事業所が 2 箇所あります。

*プレストレスト・コンクリート（Prestressed Concrete, あらかじめ緊張材によって圧縮力を与えられたコンクリート）に用いられる高強度鋼材。強い引張り力が求められる。

同社は、1917(大正 6)年、尼崎市で設立された乾鉄線(株)(後に日本鉄線鋼索(株)に改称)を 1943(昭和 18)年に神戸製鋼所が買収、1954(昭和 29)年、神戸製鋼所から尼崎工場が分離して設立されました(当初社名は神鋼鋼線鋼索(株))。

貝塚市にある事業所(ロープ事業部ロープ製造所二色浜地区)は、1907(明治 40)年、岸和田市で設立された泉州織物(株)を起源とし、1912(明治 45)年設立の関西製綱(株)でマニラロープの製造を始めました。1918(大正 7)年に、ワイヤロープの製造を始めています。1943(昭和 18)年、繊維会社 3 社と合併して帝国産業(株)を設立、その後、事業譲渡・社名変更を経て設立された(株)テザックが、1995(平成 7)年に二色製造所を開設しました。同社は新たに設立した(株)テザックワイヤロープにワイヤロープ事業を譲渡、その後、2018(平成 30)年、神鋼鋼線工業がテザックワイヤロープを吸収合併して同社二色浜事業所としました。同事業所は、主にエレベータなどに使用される細径のロープを製造しています。

開催日：11 月 20 日(水)

集合：南海本線「貝塚」駅・改札口、12 時 45 分

12:22, 47 着の電車あり。

水間鉄道バス(コスモスライナー)「南海貝塚駅東口」バス停 13:00 発のバスに乗り、「商工会議所前」バス停で下車、徒歩約 15 分、バス運賃：320 円。

見学先：神鋼鋼線工業(株)ロープ事業部ロープ製造所二色浜地区(大阪府貝塚市二色中町 11 番 1)

見学時間(座学を含む)：約 3 時間。

※オプション見学：南海電鉄「蛸地蔵」駅(1925(大正 14)年築、登録有形文化財)、「貝塚」駅の大阪方面・次駅です。

費用(資料代)：500 円

参加希望者は 11 月 17 日(日)までに事務局宛にメールか FAX でお申し込み下さい。



写真1 神鋼鋼線工業・ロープ製造所二色浜地区の正門
(撮影：二階堂達郎)



写真2 神鋼鋼線工業・二色浜地区のロープ試験塔(地上5階, 地下1階, 高さ約25m, 撮影：二階堂達郎)



写真3 蛸地蔵駅の外観(撮影：岡田広一)

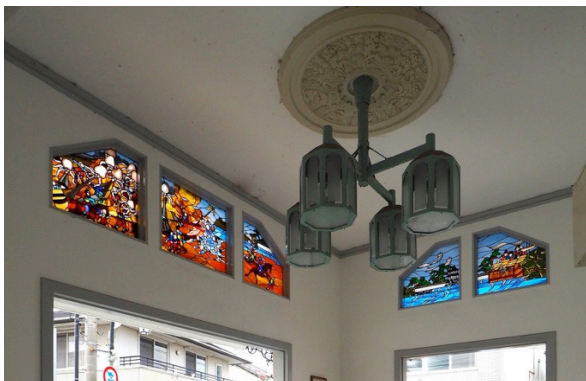


写真4 蛸地蔵駅の内部(撮影：岡田広一)

2024 年度年次大会

尼崎市立歴史博物館との共催で開催します。

今大会は、金属(鉄・非鉄)製造業・紡績業をテーマとして開催します。

特別講演は、元神戸製鋼所機械研究所長の溝口孝遠会員に伸線業に関連するご講演をいただきます。本会は、伸線・伸銅業をテーマに企画を重ねてきました。2019(成31)年に日本製線(株)ミュージアム、今年も7月に津田電線(株)資料室を見学、11月に神鋼鋼線工業(株)ワイヤロープ製造工場を予定しています。また、学会誌論文やニューズレター記事でも取り上げてきました。こうした学会活動の蓄積とご自身の研究成果を基にお話をいただきます。

また、研究発表は現在も講演者を募集中ですが、甲南大学経営学部(成31)の学生さんたちに、紡績業について、明治期の紡績工場の女性労働者の作業着にみられる変遷過程をテーマにご発表をいただくことになっています。

尼崎市は、周知の通り尼崎紡績(後の大日本紡績、ニチボー、現・ユニチカ)の発祥の地であり、その遺構である同社本社事務所(前ユニチカ記念館)の保存活用の取り組みを進めており、本会も協力してまいりました。

午前中(成31)の見学会では、地域研究史料館「あまがさきアーカイブズ」で、同館の活動概要や金属・紡績業を中心とする製造業関連の史料の解説と案内をしていただく予定にしています。午後には、同館学芸員の桃谷和則氏に両産業に関連するご講演をいただくこととしています。

開催日：12月7日(土)、午前中：見学会、午後：特別講演会・研究発表

会場：尼崎市立歴史博物館・講座室(3階)
(兵庫県尼崎市東七松町1丁目23番1号)
「阪神尼崎」駅・南口から南東へ徒歩10分。

午前中(成31)の見学：尼崎市立歴史博物館・入口、10:00集合
見学先：地域研究史料室「あまがさきアーカイブズ」(博物館内)

認証アーキビストの辻川敦氏に解説・案内をしていただきます。

※食事ができる店舗は博物館の周辺にはありませんので、弁当等をご用意下さい。会場控室で摂ることができます。

・会場受付開始：12:40

挨拶：中山会長、司会：岡田副会長

以下の講演会はハイブリッド方式で行います。

・講演：13:10～13:40(予定)

「糸・金・産業界と尼崎」

桃谷和則氏(尼崎市立歴史博物館学芸員)

・特別講演会：13:40～15:00(質疑応答を含む)(予定)

「京都・東大阪・泉南における伸線業の源流と展開」
溝口孝遠氏(会員、元(株)神戸製鋼所機械研究所長)

・研究発表講演会(講演者募集中)：15:10～(予定)

「明治期紡績工場における女性労働者の作業着について：和服から洋服への移行の一側面の考察(仮)」

甲南大学経営学部・平野ゼミ生(4名)、

連名者：平野恭平氏（会員，甲南大学経済学部）
梗概資料集代：500 円

参加希望者（オンラインも含む）は 12 月 3 日（火）までに，事務局宛にメールか FAX にてお申し込み下さい。

研究発表講演者募集 申込締め切り日：11 月 24 日（日）

学会誌『近畿の産業遺産』第 19 号 原稿募集

『近畿の産業遺産』第 19 号の原稿を募集します。多くの会員の投稿をお待ちしています。奮ってご応募下さい。資料の紹介など，論文形式ではないものでも結構です。

・申込締切日：

論文（査読付き）：2024 年 12 月 31 日

調査報告・研究ノートなど，論文以外：2025 年 2 月 28 日

「畝傍駅の 130 年を振り返る連続講演会」

第 2 回講演会を聴講して

寺島俊之

- ・開催日：2024 年 10 月 20 日（日） 13：30～15：40
- ・会場：橿原市内膳町「すみれホール」5F 会議室
- ・講師：北山峰生氏
（奈良県立橿原考古学研究所調査第一係長）

・題目：「畝傍と橿原をめぐる近代史」

今回は，地元橿原考古学研究所の北山氏から，畝傍駅に現在の駅舎が建てられた頃，八木から橿原神宮にかけての街なみを大きく変化させた諸事業についての講演をいただいた。講演に先立ち，主催者側より河合正氏（NPO 法人八木まちづくりネットワーク理事）ならびに二階堂達郎（本会前会長）による開会の挨拶があった。



写真 北山峰生氏の講演シーン（撮影：二階堂達郎）

橿原神宮は 1890（明治 23）年に官幣大社として創建された。畝傍山の東南麓は神武天皇即位の地とされ，幕末には畝傍山の北東麓には神武天皇陵が定められた。明治になって地域の篤志家による「橿原神社建築願」の提出がされたことが創建の端緒である。

奈良県における鉄道網は 1890（明治 23）年における，大阪鉄道による王寺・奈良間の開業を嚆矢とする。畝傍駅の開業は橿原神宮の創建から 3 年後の 1893（明治 26）年である。

1940（昭和 15）年は皇紀 2600 年に当たり，奉祝記念事業が実施された。奈良市と橿原とを結ぶ国道に参拝道路が結ばれたほか，県は橿原神宮外苑整備として緑地帯や公共施設を建設した。橿原神宮外苑整備には建国奉仕隊が結成され，大阪朝日新聞社より運営協力がなされた。また，畝傍駅も 1940（昭和 15）年までに貴賓室を備えた現在の駅舎になった。

皇紀 2600 年記念事業ではオリンピックや万国博覧会の開催招致といった国家的事業から生まれた 2600 年事業だったが，橿原では地域の熱意が街づくりにつながったことが特筆される。地域の将来を考える上で歴史を学ぶことは貴重であると結んだ。

「神戸灘区の歴史的建造物と鉄道・産業遺産の見学会」

見学記

寺島俊之，二階堂達郎

10 月 12 日（土）に頭記の見学会を開催した。

【見学先と見学行程】

- ①旧摩耶観光ホテル（国登録有形文化財（2021（令和 3）年），内部見学）
- ②摩耶ケーブル線
- ③阪急電鉄神戸市内高架橋（選奨土木遺産 2020（令和 2）年）
- ④旧ハンター住宅（神戸市立王子動物園内，国重要文化財（1966（昭和 41）年，内部見学）
- ⑤神戸文学館（旧関西学院チャペル，国登録有形文化財 2008（平成 20）年，内部見学）
- ⑥神戸製鋼所発祥の地（旧小林製鋼所跡地，現神戸市立科学技術高等学校周辺，碑は神鋼記念病院の前に建つ）
- ⑦神戸臨港線跡
- ⑧オプション見学：神戸臨港線軌道モニュメント

まやビューライン「摩耶ケーブル」駅に 13：00 に集合。多数の申込者を予想していたが参加者は 15 名であった。ケーブルカーで「虹の駅（山上駅）」に向かった。

駅の展望台で前畑洋平会員（J-heritage 総理事）に出迎えて頂き，旧摩耶観光ホテルの概要と見学における諸注意を受ける。同ホテルは，地上 2 階，地下 2 階，全 4 層の鉄筋コンクリート造りである。1929（昭和 4）年に竣工，設計は神戸生まれの建築家である今北乙吉で施工は大林組である。当初は阪神電気鉄道グループである摩耶鋼索鉄道の福利厚生施設であったが，1944（昭和 19）年までホテルとして営業した。その後の閉鎖期間は長かったが 1961（昭和 36）年に「摩耶観光ホテル」として復活した。しかし 1967（昭和 42）年の台風被災で再び営業不能となり閉鎖，1970 年代より学生向け合宿所「摩耶学生センター」として利用されたが，1993（平成 5）年頃に閉鎖となった。その後は「マヤカン」と呼ばれる廃墟の状態になり，不法侵入も起きており，行政からは管理の徹底を求められていた。

摩耶鋼索鉄道（1925（大正 14）年開業）と旧摩耶観光ホテル付近にあった切利天上寺の参拝客を顧客とするものであったが，大正末期から昭和初期にかけて，阪神・阪急

両電鉄会社間の熾烈な競争として展開された六甲山の観光開発の歴史という側面も有する。

現在のホテルは物流会社が所有しており、代表取締役は三宮正裕氏である。前畑氏と三宮氏の尽力によって2021(令和3)年に国登録有形文化財に認定された。現在は、所有者・行政・地域団体が連携する管理施設となっている。フェンスや監視カメラの設置により不法侵入防止策をとる一方、ガイドツアー、映画やテレビのロケに協力するなど観光との両立を目指している。

前畑氏の先導で全員ヘルメットを着用して内部を見学する。メインエントランスは4階(地上2階)で、突き当たりにはアール・デコ調の舞台を備えたホールがある。映画室の遺構も確認されており、映画の上映も行われていたと考えられる。ホール南側にはベランダやオープンテラスがあり、ここからは神戸の市街地と港が一望でき、人気を呼んだものと思われる。ベランダを覆う上屋や、階下(地上1階)の厨房につながる配膳用リフト(ダムウェーター)の遺構があった。鉄製の支柱も散乱していた。



写真1 ホール見学の様子(撮影：寺島俊之)

外階段から3階(地上1階)内部に入る。宿泊者や日帰り入浴者向けのメインエントランスがある。メインダイニングにはテレビドラマのロケで使用されたピアノが残されていた。備品等はほとんど撤去されているが、冷蔵庫等が食堂や厨房に残されている。厨房には屋外配線を引き込んで室内に分岐する分電盤(3相交流)が残されていた。

館で使用する水については山の湧き水を引き、受水槽に貯めて各階に給水したと推測される。トイレは多数あり、和式便器であったが、水洗式であった。敷地内で汚水処理用の施設らしき遺構が確認されている。



写真2 メインダイニング。ピアノは、テレビドラマ「たとえあなたを忘れても」(2023 年秋に朝日放送テレビで放映された)で使用された。(撮影：寺島俊之)



写真3 厨房の分電盤(撮影：寺島俊之)

1階(地下2階)では客室が並んでいた。ホテル時代は洋室とされたが、学生合宿所時代に畳敷に改修されたようである。2階(地下1階)の南側の洋室は、改修前は脱衣室と天井までのガラス窓を備えた浴室であった。

館内には、客室11室に対して多くの浴室や大食堂、400名収容のホールがあることを考えると、現在のホテルと同様、宿泊以外の利用客を重視していたことが分かる。

外に出て南側から建物の外観を眺める。南側に突出した3層部分の底は、曲面を帯びた水平線が強調されており特徴的なデザインが見て取れた。最上階の丸窓、塔屋、そして2本の煙突が建築当初にはあったことを考え合わせると、「山の軍艦ホテル」の異名をとったことが理解できた。

創建当時の建築図面は発見されていない。戦後の再開時を中心に改修が重ねられてきたとのことであるが、不明な点が多いとのことであった。その履歴を解明することは、文化財としての価値を確認する上で必要であろう。また、周辺一帯は「摩耶遺跡」と呼ばれる遺跡群が存在する。これらとのかかわりを強めていくことは、ホテルが存在した歴史的空間を理解する上で有効であろう。

見学後、ケーブルカーで下山した。「摩耶ケーブル」駅には客車に取り付ける貨車が置かれていた。側面には「製造：昭和36年4月」と標記されており摩耶観光ホテルの営業再開時期と一致する。ホテルをはじめ山上施設への物質輸送に使用された可能性もある(写真4)。



写真4 摩耶ケーブル貨車(撮影：寺島俊之)

摩耶ケーブル駅からバスで阪急王子公園駅に向かう。同駅付近の阪急電鉄神戸市内高架橋の原田拱渠(拱橋)を見学する。鉄道院出身の土木技術者である阿部美樹志の設計により1936(昭和11)年に完成した。この高架橋の建設も、六甲山観光開発と並行して展開された阪神・阪急間で繰り広げられていた神戸都心部(現在の神戸三宮駅)への

乗り入れをめぐる熾烈な競争の所産でもある。下の幹線道路には神戸市電石屋川線(1944(昭和19)～1969(昭和44)年)が運行されていた。

神戸市立王子動物園に入園、旧ハンター住宅を見学する。1889(明治22)年頃ドイツ人のA. グレッピーが英国人技師に依頼して神戸市中央区北野町に建てたとされている。1907(明治40)年頃、大阪鉄工所(日立造船を経て、現・カナデビア)の創立者であるE. H. ハンターが購入、神戸市中央区北野町に移築した。1階に3室、2階に4室が東西に並び、南面と東面に列柱式(コロネード)のベランダがめぐらされている。この移築時に大幅な改造が行われ、開放されていたベランダに当時貴重な窓ガラスが全面に嵌め込まれて、現在の外観となった。階段踊り場のステンドグラス、各所に施された豪華な装飾が特徴的である。現在、神戸市が推進する王子公園再整備基本計画中には北野地区への移築を検討するとの文言があるが、未定とのことである。見学後、神戸文学館に向かう。

同館の前身である、ブランチ・メモリアル・チャペルは関西学院原田の森キャンパスの礼拝室として1904(明治37)年に建てられた赤レンガ造の建築物である。関西学院が西宮市上ヶ原に1929(昭和4)年に移転後も現在地に残された。戦後は市民ギャラリー等に利用されたが2006(平成18)年より神戸文学館としてリニューアルオープンした。約30分間の自由見学の後、退出した。

坂道を南下して、神戸製鋼所の前身であった小林製鋼所跡地(現在の神戸市立科学技術高等学校)の東側を通る。神戸製鋼所は、1905(明治38)年、鈴木商店がこの地にあった鉄鋼会社「小林製鋼所」を買収し、「神戸製鋼所」と改名したのに始まる。その後1911(明治44)年、「株式会社 神戸製鋼所」として独立した。当初は 鋳鍛鋼メーカーとしてスタート、その後、鉄鋼メーカーとして発展した。阪神淡路大震災(1995(平成7)年)当時、神戸臨港線跡を挟んで北側に工場、南側に本社、研究所があったが、南側を中心に甚大な被害を受けた。



写真5 神戸臨港線跡・架道橋跡 (撮影：寺島俊之)

神戸臨港線跡地を東に歩く。JR 灘駅付近で17時にいったん解散した後、オプションツアーで緑地広場の軌道モニュメントに立ち寄った。神戸臨港線は神戸港第一期修築工事に対応して、東灘信号場から分岐、新港突堤群に近い小野浜駅までの区間が1907(明治40)年に開通、その後も路線網を拡大した。最盛期には、西は兵庫区の湊川駅、

東は摩耶埠頭まで延伸した。旅客輸送のポート・トレインが第4突堤まで運行されたこともあった。しかし、コンテナ輸送の進展に伴い臨港貨物線は順次縮小され、最後まで残った神戸港駅も2003(平成15)年に廃止、業務を神戸貨物ターミナル駅(元 JR 貨物鷹取駅)に移して現在に至る。



写真6 神戸臨港線跡緑地公園・軌道モニュメント

(撮影：寺島俊之)

今回の見学会の開催にあたり前畑洋平会員にはお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

【出版物紹介】『絵葉書で訪ねる東ヨーロッパ、北・中央・南アメリカの橋』

(編著者：中元雄治)

「絵葉書で訪ねる橋」シリーズの「東ヨーロッパ、北・中央・南アメリカの橋」編である。各地域の主な国の歴史的な橋の絵葉書や銅版画を350葉収録した。特にアメリカの鉄(かね)の橋や屋根付き橋を多く収録。

吊橋200年の歩みでは、チェーン、ロープやワイヤー材料を用いた吊橋の中央支間長世界最長記録の歴史を特集し、最新の中央支間長ランキングも収録。

(A4・52ページ、フルカラー、2024年10月14日発行)

代金(1部)：1300円、送料250円。支払方法：切手。

申込・問い合わせ先：[E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

絵葉書で訪ねる 東ヨーロッパ、北・中央・南アメリカの橋



本書は、東ヨーロッパ、北・中央・南アメリカの橋を、絵葉書や銅版画で紹介する。各地域の歴史的な橋の絵葉書や銅版画を350葉収録した。特にアメリカの鉄(かね)の橋や屋根付き橋を多く収録。

吊橋200年の歩みでは、チェーン、ロープやワイヤー材料を用いた吊橋の中央支間長世界最長記録の歴史を特集し、最新の中央支間長ランキングも収録。

(A4・52ページ、フルカラー、2024年10月14日発行)

代金(1部)：1300円、送料250円。支払方法：切手。

申込・問い合わせ先：[E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された2024年9月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。前号に掲載した2024年7,8月のデータが誤っていましたので、訂正して再掲します。

- ・2024年7月(公開論文数:26):
書誌事項へのアクセス数:合計 224回
全文PDFへのアクセス数:合計 439回
(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;40回, 全文PDF;148回)
- ・2024年8月(公開論文数:26):
書誌事項へのアクセス数:合計 200回
全文PDFへのアクセス数:合計 399回
(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;22回, 全文PDF;87回)
- ・2024年9月(公開論文数:26):
書誌事項へのアクセス数:合計 296回
全文PDFへのアクセス数:合計 466回
(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;31回, 全文PDF;88回)

2024年度第3回役員会議事録

日時:2024年9月11日(水),9:00~20:30,オンライン

参加者:中山会長,岡田副会長,貝柄幹事,寺島幹事,二階堂幹事,溝口幹事,若林あかね

議事:

1. 前回役員会議事録の承認
2. 入会承認
増山聖子氏の入会が承認された。

3. 見学会 [次回見学会]

- ・日時:10月12日(土),集合:摩耶ケーブル線「摩耶ケーブル」駅改札口,13:00,主要見学先:旧摩耶観光ホテル,旧ハンター住宅,神戸文学館,岩屋臨港線跡等。近日中に下見を実施。

[次々回見学会]

- ・日時:11月20日(水),集合:南海本線「貝塚」駅・改札口,12:45,水間鉄道バス(コスモスライナー)「に乗車,見学先:神鋼鋼線工業(株)二色浜工場,見学時間:約3時間,テーマ:伸線業・ワイヤローブ製造業。

4. 2024年度年次大会

- ・日時:12月7日(土)。ハイブリッド方式で開催,会場候補:尼崎市立歴史博物館,講演:未定,見学先:地域研究史料室「あまがさきアーカイブズ」,担当者に打診する。

5. 学会誌18号原稿

和田康由氏(講演記録),久岡会員(講演記録,受領済み),白木会員,中山会員

6. 学会誌電子ジャーナル公開(報告)

7. ニュースレター140号

9月中旬に発行予定。

8. 調査・研究について(報告)

9. その他

「畝傍駅の130年を振り返る連続講演会」(主催:NPO法人八木まちづくりネットワーク,NPO法人大和八木まち創り会,協力:本会)

[第1回講演会]

- ・日時:9月16日(月祝)開場13:00,開演13:30,質疑応答15:30,閉場16:00,会場:橿原分庁舎「ミグランズ」4階コンベンションルーム,講師:中山嘉彦氏,講演題目:「畝傍地方の鉄道史 一各路線・各駅の変遷一」

[第2回講演会]

- ・日時:10月20日(日)開場13:00,開演13:30,質疑応答15:30,閉場16:00,会場:内膳町自治会館すみれホール5階多目的ホール,講師:北山峰生氏(奈良県立橿原考古学研究所),講演題目:「畝傍と橿原をめぐる近代史」

次回役員会(オンライン):11月6日(水),19:00~

会員計報

大塚融氏が,2024年10月15日に逝去されました。

氏は,NHKの経済記者時代から船場の近代経済史を取材され,退社後は家訓社訓・数奇者研究家として活躍されました。大阪起業家ミュージアムの立ち上げにも参画されたほか,関東に流出した万年社の資料を有志で買い戻すなど,一貫して企業の歴史の研究に尽力されました。2018年には,ロンドンのキューガーデンで開催された「^{らんかふ}蘭花譜展」にも加賀正太郎氏の刊行した木版画の展示に尽力され,ご自身も渡英されるなど精力的に活動されていましたが,病氣のため逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

2024年11月10日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL: <http://kinias.jp>

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付

Tel: 06-6381-8434 (代), Fax: 06-6382-4363 (代)

E-mail: kinias-ec@nifty.com

会費納入先(郵便振替)

口座番号: 00950-9-150085, 加入者名: 近畿産業考古学会